

環境調査結果のお知らせ

令和8年3月27日10時から浦ノ内湾の環境調査を実施しました。

概況

検鏡の結果、ハプト藻は確認されませんでした。

ハプト藻が、これまでに国内で漁業被害を引き起こした事例は確認されていませんが、国外ではハプト藻の一種が魚類のへい死を引き起こしたことがあります。

現時点で、浦ノ内湾におけるハプト藻と今回の漁業被害との因果関係は不明ですが、今回の赤潮に有害種が混在していた可能性もあります。

現在、ハプト藻は消失していますが、再び増殖する可能性もありますので十分注意してください。

また、魚類に対して有害とされるヘテロシグマ・アカシオが最高で20 cells/mL確認されました

調査点 (透明度) 【調査時刻】	海洋環境				プランクトン	
	深度	水温	塩分	溶存酸素	ヘテロシグマ・ アカシオ	ハプト藻
	(m)	(°C)		(mg/L)		
A 中学校前 (5m) 【10:14】	0	16.3	32.7	8.6	0	0
	2	16.4	33.0	8.9	10	0
	5	16.6	33.6	8.3	0	0
	10	16.0	33.6	7.1	0	0
	底層 12	16.0	33.7	6.2	0	0
B 光松 (5.1m) 【10:28】	0	16.5	33.0	8.5	0	0
	2	16.6	33.3	8.5	0	0
	5	17.2	33.8	8.0	0	0
	10	17.1	33.9	7.4	0	0
	底層 16.5	16.3	33.7	6.1	0	0
C 大鹿 (4.8m) 【10:41】	0	16.7	33.0	8.5	0	0
	2	16.6	33.3	8.6	0	0
	5	17.3	33.8	8.0	20	0
	10	17.1	33.8	7.5	0	0
	底層 16.5	16.2	33.7	6.1	0	0
D 水試小割前 (4.9m) 【10:56】	0	17.5	33.6	8.0	0	0
	2	17.1	33.5	8.1	10	0
	5	17.2	33.7	7.9	0	0
	底層 9	17.4	33.9	7.3	0	0

参考：有害プランクトンの種類と注意及び警戒基準

有害プランクトン	被害	注意基準 (※1)	警戒基準 (※2)	主な赤潮発生時期 ※3
				浦ノ内湾
ヘテロシグマ・アカシオ	魚類等のへい死	5,000 cells/mL	50,000 cells/mL	3~12月

※1 注意基準：餌食いの悪化、警戒基準に達する恐れのある密度

※2 警戒基準：魚類及び二枚貝のへい死並びに二枚貝の毒化が想定される密度

※3 あくまで目安なので、水産試験場・漁業指導所の広報や養殖魚の状態に応じて、慎重な養殖管理をお願いします。



A: 中学校前

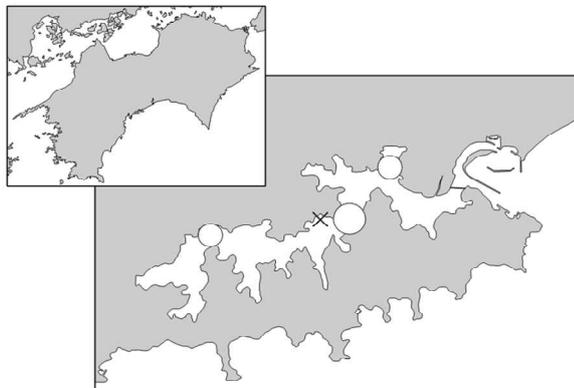
B: 光松

C: 大鹿

D: 水試小割前

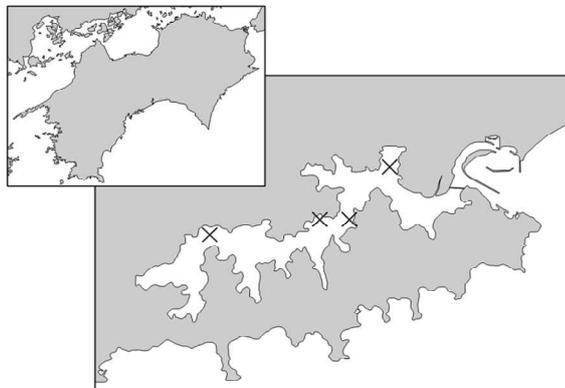
ヘテロシグマ・アカシオ

最大細胞密度



ハプト藻

最大細胞密度



凡例

プランクトンの細胞密度を示す円の大きさ

円のサイズが大きいくほど、プランクトンの数が多いので注意してください。



注意・警戒を示す円の色

黄・赤色の円が確認された場合は、魚介類に悪影響が生じる可能性がありますので、注意してください。

基準値は、「参考：有害プランクトンの種類と注意及び警戒基準」を参照ください。

注意基準の値以上



警戒基準の値以上

